

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要について

井原市教育委員会学校教育課

1 実施の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 令和5年4月18日(火)

(3) 参加状況 市内13小学校6年生267人 5中学校3年生265人

- (4) 調査内容 ①教科に関する調査(国語、算数・数学、英語【中学校】)
②生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

2 井原市の学力調査の状況 (平均正答率%)

	小学校6年生		中学校3年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
井原市	67	60	72	49	42
岡山県	68	61	70	51	44
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
県比較	▲1.0	▲1.0	2.0	▲2.0	▲2.0
全国比較	▲0.2	▲1.5	2.2	▲2.0	▲3.6

3 教科・領域別にみた調査結果概要 (全国平均正答率との比較%)

	話す・聞く	書く	読む	言葉※
小国	1.4	▲7.6	▲1.3	0.9
中国	▲0.2	8.6	▲2.9	1.1

※「言葉の特徴や使い方に関する事項」

	数と計算 数と式	図形	変化と 関係関数	データの 活用
小算	▲2.5	▲1.9	▲5.6	▲1.8
中数	▲2.2	▲5.8	▲3.4	3.6

	聞く	読む	書く
中英	▲3.0	▲2.1	▲5.1

4 質問紙調査結果 ※岡山県教育委員会の指定する重点項目（肯定率％）

肯定的回答率		①授業理解 国語	②授業理解 算・数	③主体的な学 び	④対話 的で深 い学び	⑤自己 調整力	⑥学習 1h以 上	⑦夢・ 目標	⑧自己 肯定
小 6	井原市	91.7	83.0	83.4	87.0	85.2	66.0	66.1	81.9
	岡山県	85.9	80.4	78.2	81.9	77.7	63.8	61.1	85.8
	全国	85.7	81.2	78.8	81.8	77.4	57.1	60.8	83.5
	県との差	5.8	2.6	5.2	5.1	7.5	2.2	5.0	▲3.9
	全国との差	6.0	1.8	4.6	5.2	7.8	8.9	5.3	▲1.6
中 3	井原市	83.8	88.6	80.8	85.6	79.3	62.3	41.5	81.1
	岡山県	80.5	74.1	78.9	80.5	69.0	60.8	41.6	82.0
	全国	80.0	73.3	79.2	79.7	69.2	65.8	39.4	80.0
	県との差	3.3	14.5	1.9	5.1	10.3	1.5	▲0.1	▲0.9
	全国との差	3.8	15.3	1.6	5.9	10.1	▲3.5	2.1	1.1

※学習状況調査の分析については、県の方針に則り、以下の県重点8項目について行う。

- ①「国語の授業の内容はよく分かる」
- ②「算数・数学の授業の内容はよく分かる」
- ③「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」
- ④「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う。」
- ⑤「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていたと思う。」
- ⑥「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していましたか。（学習1時間以上）」
- ⑦「将来の夢や目標を持っている。」（「当てはまる」と回答した児童生徒の割合）
- ⑧「自分には、よい所があると思う。」

5 考 察

- 小中学校ともに「主体的な学び」「対話的な学び」が全国値を上回っている。各校で児童生徒が課題の解決に向けて自分で考えたり、友達と話し合う活動を通じて自分の考えを広げたりする授業づくりが進められていることがうかがえる。
- 小中学校ともに「授業理解」は全国値を上回っている。児童生徒が分かったと感じることのできる授業が行われていることがうかがえる。
- 小中学校ともに「夢・目標」が全国値を上回っている。「ふるさと井原の未来を創るひとつづくり事業」等の探究的な学習活動について、各校が効果的に取り組めて

いることがうかがえる。

△「授業理解」は全国値を上回っているものの、「平均正答率」が全国値を下回っている教科もあることから、学習内容の確実な定着を意識した指導や発展的な問題の取り扱いを意識した授業展開の必要がある。

△小学校の「自己肯定感」については、全国値を下回っている。子ども自身が自分の良さを感じることでできる場面の設定を意図的に増やしていく必要がある。

△中学校の「学習1h以上」については、全国値を下回っている。家庭学習習慣の定着に向けた取組の徹底が求められる。

6 今後の対応

- (1) 引き続き、学習指導要領の趣旨に則った、主体的・対話的で深い学びの実現が図られ、基礎基本の確実な定着を目指した「わかる・できる」のある授業改善を行う。校内で組織的に授業改善の取組が推進される風土の醸成に努める。
- (2) 調査結果の誤答分析を行い、授業で扱う学習内容について検討を行う。また、つまずきの解消を図るための取組を組織的に行う。
- (3) 児童生徒が自分で決めたことをやり遂げられるような学習活動を設定し、自己の変容を実感できるよう振り返りを充実させることにより、児童生徒の自己肯定感を高め、主体的に学ぶ力を育成する。
- (4) 授業とつながる宿題（予習・復習）を設定し、児童生徒が取組む意義を感じ主体的に取り組むことができるよう工夫する。1人1台端末の授業における活用を進め、家庭学習においても活用場面を設定する。
- (5) 井原市学力向上対策研修会を実施し各校の取組の共有を図るとともに、他校の好事例を所属校で実践する。